

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102905		
法人名	医療法人和光会		
事業所名	グループホーム ファミリーケア大黒町		
所在地	岐阜県岐阜市大黒町3丁目12番地1		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102905&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は個別ケアに力を入れ、個々のご利用者様の希望・要望をこれまで以上に意識してサービス提供してきました。個別ケアに関しての勉強会も開き知識を深め、職員全員が共通の意識を持ち取り組みました。
地域の方々からは散歩中に声をかけて頂けたり、川で釣った魚を差し入れて頂けたりと暖かいご支援を頂き地域に根ざした施設となっております。また、医療連携が整っており、安心して生活して頂ける環境となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体は、地域医療で大正年代からの長い歴史をもつ医療法人であり、利用者が最期まで安心して健康的な暮らしができるよう、医療・介護の連携を整えている。自治会活動には積極的に参加し、双方向の協力関係を築いている。ホームの大ホールは、イベントや住民の集会場として無料で解放し、子どもたちやボランティアの人たちとの交流拠点にもなっている。管理者・職員は、利用者の思いや願いを引き出し、笑顔のあるケアと、個々の人格を尊重・共感し、常に意識を高めながら、質の高いサービスを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や事業所の願いを常に意識できるよう掲示し、実現に向けて職員間で話し合いの機会を設け取り組んでいます。「ゆたかにおらかに」を合言葉とし、地域の中でその方らしく生活出来る様実践につなげています。	住み慣れた地域の中で、馴染みの人々と関わりながら、安心した暮らしができるよう、3項目の理念を掲げている。理念は、玄関や名札の裏に明示し、全職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事(防災訓練・お祭り・地域の川清掃・公民館にてふれあいの会)に参加しています。また、施設内のホールをふれあいセンターとして開放し、町内会の会合や老人クラブの活動などに活用頂いています。	町を良くする「ふれあい会」の一員として、川の清掃活動や地域行事等に参加し、地域と親密な関係を築いている。ホームの、プロジェクターを設備した大ホールを、地域の個人や団体に無料で開放し、交流拠点になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を支える地域の会の一員として、積極的に研修や実技に参加し、地域の方々に伝えている。また、運営推進会議などの際に話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のご利用者の様子や施設運営状況をスライドショーや資料にて報告し、ご意見・ご要望を伺っている。それを基に話し合いの機会を持ち、サービスに活かせるよう努めています。	会議は、家族・行政・地域包括支援センター・地域関係者の多数が参加し、2ヶ月ごとに開催している。出席者は毎回、自己紹介と課題や情報等を提供することになっている。会議で出た意見・要望は速やかに、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者に当施設の実情や今後の取り組みに対する疑問点など積極的に伝え、アドバイスを頂き協力いただいている。	法人の担当者が、市の担当者と毎週面会し、ホームの実情を伝えている。利用者の利用現状、入退院や事故の情報などの報告、市民講座の開催等で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での勉強会や施設外研修の参加を基に理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束は、やむを得ない場合であっても、他の手段を工夫し、拘束はしない取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会や運営推進会議での講習を基に理解し、虐待が起きないように取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームファミリーケア大黒町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての資料を基に勉強会を開き、職員間で話し合いを設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族の複数での立会いにて、入所時には重要事項説明書・契約書の項目を細かく読み、疑問点や不安を尋ねている。納得いただいた上での契約を行います。解約も同様に行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客満足度調査を法人全体で行い、匿名にて意見を頂いている。その意見を基に話し合いの機会を設け、改善策を協議している。また、玄関先に意見BOXを設置し、意見が伝えやすいよう工夫している。	家族の訪問時や、満足度調査を行い、意見・要望を聞いている。「パットの使用量を減らせないか、利用者に不眠の訴え」などがあつた。意見・要望は、全体会議で検討し、速やかに改善している。	ホームが提供している外出等のサービス内容が、一部の家族に適切に伝わっていないことがある。実践状況の理解が得られるように配慮されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体ミーティングを行い、話し合いをしている。また、業務間に話し合いの場を設け、早期に反映できるようにしている。	毎月1回、全体会議の場で、管理者が、職員の意見を聞いている。職員からの「夜勤1人では不安が大きい」との意見に、夜勤を2人体制にするなど、職員の意見を取り入れ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に目標計画書を記入し、目標設定や振り返りの機会を設けている。また面談を行い、話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの実際や力量を把握した上で、本人の希望も聞き、法人内外の研修を受ける機会の確保をしている。また受けた研修の情報はミーティングなどを通し、伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会に管理者が参加し交流している。また、その情報を職員に伝え、サービスに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面談前に担当ケアマネより情報収集を行い、本人の真意を確認しておく。その後話し合いの機会を設け、安心できるよう本人の要望を傾聴し良い関係作りに努めている。(必要であれば何度か足を運び、お会いする。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて要望や不安をお聞きし、その内容に基づいて職員間で話し合い対応策を考える。話あった対応策を家族に伝え、密に連絡を取り合う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のニーズを傾聴し、他部署と連携・相談を行いながら支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のこれまでの生活歴や性格を理解し、ご本人のペースで生活出来る様支援しています。ご本人とゆっくり話す機会を設け、共に改善策や方法を考えます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を開催し、ご本人とご家族の絆作りの時間を設けています。また、ご家族と話し合う時間を設け、ご本人を共に支援していける関係を築く努力をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機会をみて外出の際にご本人馴染みの場所へ出掛けています。また、ご家族はもちろんご友人の面会も気軽に来て頂ける様お話し、電話や手紙のやりとりも自由にできる環境を作っています。	友人・知人・親戚がよく訪れている。居室やホールでゆっくり過ごしてもらうように配慮し、記念写真を撮るなど、関係が途切れないように努めている。馴染みの店での買い物・喫茶・外食・思い出多い景勝地などへ、継続的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格やその方との相性を把握し、席決めや外出計画など円滑に皆さんが関わり合える環境作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた場合でもご家族の許可を得て面会へ行き、お話しさせて頂いています。又、ご家族へ必要に応じて電話や季節の挨拶をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や要望を自然な形でお聞きできるよう、日頃より個別にて話をする時間や場所を設けています。困難な場合はご家族・ご友人より情報を収集し、ご本人本位に近づけるよう努力しています。	日々の生活の中で、昔の思い出を語ることが多く、そこから、思いや意向を汲み取っている。困難な場合でも、表情やしぐさから把握している。思いにふれあい、語り合うことで、笑顔のある暮らしに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時ご本人・ご家族・ケアマネより情報収集を行い、それを基に職員間で話し合う。情報の共有・把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の表情・行動・言動を1日を通して記録し、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族より要望や意見を伺い、それを基に職員・関係者で話し合いの場を持ち、介護計画を作成している。	定例のサービス会議で、本人の心身の状態を検討し、気づきやアイデアを介護計画に反映している。その際には、本人・家族や関係者と話し合い、本人本位の介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテにその時の状況やご本人の様子を記入し、その情報を共有している。介護計画や日々の支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を充実し、疾患の早期発見・治療を支援しています。緊急時はご家族の許可を得て、搬送の手配等の支援を行っています。		

岐阜県 グループホームファミリーケア大黒町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館行事への参加やボランティアとの関わりを通し、ご利用者一人ひとりの要望を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体が病院であり、法人医師が月に2回往診日を設けている。ご本人・ご家族が特定のかかりつけ医があり希望される場合は希望の医療が受けられるように支援している。	月に2回、法人のかかりつけ医が往診している。特定の医療機関への受診には、家族が対応している。医療法人の利点を活かし、適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気付いた情報を記録し、併設のデイサービス在住看護師に報告・相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際ご本人の情報を申し送り、安心して治療できるように支援しています。また、地域連携室とこまめに連絡を取り合い関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に看取り体制についての説明をしている。医療連携や他施設との協力体制をお伝えし、方針を話し合う機会を設けている。	契約時に、終末期の指針を家族に示し、説明をしている。重度化に伴い、段階的に関係者と話し合うことも定めている。看取りには、医療・介護の連携体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に定期的に訓練や研修を行い、実践力が身につくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練・消防訓練を実施している。また地域で行われる防災訓練にも参加し、地域の消防団とも協力体制を築いている。	年2回の避難訓練と防火訓練を行っている。地域合同での防災訓練にも参加している。地域の消防団とは、連携体制を築いている。また、緊急連絡網のなかに、地域住民も含まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際には声をかけるなどプライバシーを守るよう努めています。また、プライバシー確保の認識を深めるため、勉強会を開いています。	日々のケアや生活の場面で、誇りを損ねない言葉かけに努めている。入室時やトイレ誘導時の声かけに配慮し、常に高齢者を敬う気持ちで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望や想いを訴えられた際、状況に応じて他職員と相談・協力し希望に添えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や生活歴を考慮し、ご自分にペースで過ごして頂けるよう環境作りをしています。自分で希望が伝えられない方に関しては、いくつかの選択肢を用意し、ご本人に選んで頂くよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と買い物に出かけ、化粧品や衣類を購入します。ご本人の好きな色や、その時々々のTPOに合わせご本人と相談しながらオシャレを楽しんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、食べたい物や味の好みを知り、献立に活かしている。また、個々の状況に合わせて準備や買い物等をして頂き、食事を楽しみが持てるよう支援しています。	一人ひとりの好みを把握し、献立に取り入れている。定期的に、管理栄養士が献立をチェックし、バランスのとれた食事を提供している。職員と一緒に準備や片付け、同じ物を食べながら、味付けなどを話題にして、ゆっくり食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、摂取量、水分量をご本人の体型・状態・生活歴に合わせて確保できるよう情報収集を行い、それを基に情報の共有し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きを日課として必ず声掛けをしている。必要に応じて支援し、清潔保持を保てるようにしております。		

岐阜県 グループホームファミリーケア大黒町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿間隔をチェック表にて把握し、適切な時間にトイレ誘導が出来るよう支援しています。	個々の排泄間隔を把握し、トイレに誘導している。その結果、トイレでの排泄に繋がり、失敗が少なく、パットの使用量も減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品・食物繊維・水分等を多くとるように工夫しています。また、適度な散歩や体操も日頃から取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせていつでも入れる状態となっており、その事をご本人にお伝えしている。また、汗や汚れた場合にはいつでもお入りいただける。	本人の希望があれば、何時でも入浴できるようになっている。入浴を嫌がる人はいないので、各種の入浴剤を入れ、ゆったりと温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活歴や状態に合わせて室温・照明・音・リネンなどの環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴や服薬内容を職員全員が情報共有し理解している。また、薬の変更や状態変化が見られた場合申し送りを密に行い対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意分野を考慮し、役割や楽しみを見つけ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて他職員と相談・協力しその日の希望に柔軟に対応できるよう努めている。また職員では対応が難しい場所に関しては、ご家族に相談し協力得てその機会を設けている。	ホーム周辺の生活道路を、日常的な散歩コースとしている。近くの店での買い物、喫茶・外食・公園での花見などによく出かけている。さらに、外泊・墓参り・親戚訪問等は、家族と協力して支援している。	

岐阜県 グループホームファミリーケア大黒町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態・状況に合わせお金をご本人が使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話のやりとりができる事をご本人・ご家族に説明している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に、家庭的な雰囲気を大切にしています。分りやすい標示をつけるなどご本人が混乱しないよう工夫しています。	居間と調理場は対面している。裏窓越しに中学校の建物が迫り、にぎやかな生徒の声が聞こえ、その先には岐阜城も見え、居ながら、季節の移ろいや生活感を感じることができる。居間・廊下・ホールの壁には絵画がさりげなく飾っており、落ち着いた雰囲気でゆとりのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士が共に過ごせる場所や時間を提供し、よりよい交友関係が築けるよう工夫しています。またご本人の状態・状況に合わせ一人になれる空間も提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものや思い出の品を持参していただける事をお伝えし、ご本人が居心地良く生活して頂ける様支援しています。	使い慣れた小物や、趣味の手づくり作品、ぬいぐるみなど、思い入れのある品物が置いてある。動物の好きな人の部屋には、犬の絵が入っているカレンダーが飾られている。部屋は、自分で掃除するようにし、生きる力を育むようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「字が読める」「物を見れば分る」など個々の状態に合わせ掲示や物の配置を工夫しています。またできない事に目を向けるのではなく、どこを援助したらできるようになるのかを職員で話し合い支援している。		